



2021年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月12日

上場会社名 株式会社イグニス 上場取引所 東
 コード番号 3689 URL <https://1923.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 錢 鋌
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 松本 智仁 TEL 03-6408-6820
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第1四半期の連結業績（2020年10月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第1四半期	1,444	△3.5	△255	—	△314	—	△377	—
2020年9月期第1四半期	1,496	11.4	65	—	19	—	△71	—

(注) 包括利益 2021年9月期第1四半期 △379百万円 (—%) 2020年9月期第1四半期 △69百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第1四半期	△24.19	—
2020年9月期第1四半期	△4.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第1四半期	4,290	2,341	54.4
2020年9月期	4,909	2,681	54.4

(参考) 自己資本 2021年9月期第1四半期 2,334百万円 2020年9月期 2,673百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年9月期	—	—	—	—	—
2021年9月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年9月期の連結業績予想（2020年10月1日～2021年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,000	23.2	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年9月期1Q	15,676,400株	2020年9月期	15,641,600株
② 期末自己株式数	2021年9月期1Q	43,351株	2020年9月期	43,321株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年9月期1Q	15,616,002株	2020年9月期1Q	14,619,305株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4.「当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料はTDnetで2021年2月12日に開示予定となります。また、音声による補足説明についても速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済及び我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う世界的な経済活動の制限を経て、感染防止策と社会経済活動の再開との両立を課題とする一方で、国内外における感染再拡大など事態の収束の見通しが立っておらず、経済への影響や社会不安が重なり、先行きが不透明な状況が続いています。

当社グループ（当社及び関係会社）は「世界にインパクトを与えなければ、気がすまない」という経営理念及び「次のあたりまえを創る。何度でも」というミッションのもと、インターネット、スマートフォン等を通じた様々なビジネス領域において、多くのユーザーに支持されるサービスの企画・制作・運営を行っています。

当社グループは、当第1四半期連結会計期間より、「ゲーム事業」について量的な重要性が低下したため、「その他」の区分に含めており、「マッチング事業」「エンターテック事業」の2区分を報告セグメントとしております。

当第1四半期連結累計期間においては、恋愛・婚活マッチングサービス『with』を展開しているマッチング事業が、広告効率が一時的に悪化したものの引き続き売上高・営業利益に大きく貢献いたしました。エンターテック事業においては、バーチャルライブアプリ『INSPIX LIVE』の大型アップデート版であるライブ特化型仮想空間SNS『INSPIX WORLD』の2021年4月リリース予定に向け、他社IPとの取り組みや開発投資を積極的に行いました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,444,381千円（前年同四半期比3.5%減）、営業損失は255,717千円（前年同四半期は65,072千円の営業利益）、経常損失は314,207千円（前年同四半期は19,028千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は377,713千円（前年同四半期は71,042千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

各セグメントの経営成績は以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

セグメントの名称	売上高（千円）			セグメント利益又は損失(千円)		
	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減
マッチング事業	897,998	1,328,946	430,948	285,018	389,523	104,504
エンターテック事業	68,690	103,696	35,005	△321,330	△624,541	△303,211
その他	529,565	11,738	△517,826	101,383	△20,699	△122,083
合計	1,496,253	1,444,381	△51,872	65,072	△255,717	△320,789

1. マッチング事業

マッチング事業では、恋愛・婚活マッチングサービス『with』を提供しています。当サービスは、2015年9月にサービスを開始した、SMS（ショートメッセージサービス）又はFacebook認証等で簡単に会員登録が可能な恋愛・婚活サービスです。メンタリストDaiGo氏監修のもと、統計学×心理学により「運命よりも、確実。」をコンセプトとして、相性の良いお相手を探せるサービスを目指しています。現在、WEBサイト、iOSアプリ、Androidアプリの3つのプラットフォームで提供しています。

当第1四半期連結累計期間におけるマッチング事業は、『with』において、心理学やAIを活用して最適な男女のマッチングを目指し、季節イベントや各種診断イベントを実施し、ユーザー満足度をより一層高めるための施策を講じてまいりました。当該サービスについては、売上高・営業利益への貢献度が高いサービスへと成長しており、引き続きユーザービリティの向上や精度の高いマッチングを実現する機能、診断イベントを継続的に実施していくことで、ユーザー満足度の高い唯一無二の恋愛・婚活マッチングサービスを目指してまいります。また、国内でオンラインマッチングサービスが急速に浸透してきていることから、プロモーションによる新規流入だけでなく、クチコミによる新規流入も増加傾向にあり、2020年12月末時点におけるユーザー数は410万人を突破するなど、サービスは順調に成長しています。更なるサービスの浸透とユーザー数の増加を目指し、当該サービスにかかる広告投資を強化しています。

前連結会計年度においては、広告投資の効果がユーザー数の増加、売上高・営業利益の伸長につながったことから、当第1四半期連結累計期間においても引き続き積極的な広告投資を行ってきたものの、広告効果が一時的に悪化致しました。今後のサービスのより一層の拡大を図るため、新規ユーザー獲得の手法を見直すなど、各種施策を講じて参ります。

この結果、当セグメントの売上高は1,328,946千円（前年同四半期比48.0%増）、セグメント利益は389,523千円（前年同四半期比36.7%増）となりました。

2. エンターテック事業

エンターテック事業は、「音楽体験の、次のあたりまえを創る」ことを目的に、主に、パルス株式会社によるバーチャルライブアプリ『INSPIX LIVE』を開発・提供するとともに、芸能プロダクションの運営を行う株式会社VOYZ ENTERTAINMENTによる『VOYZ BOY』等、IP（注1）の展開に取り組んでいます。

パルス株式会社では、VR技術による音楽ライブを生配信するシステムの企画・開発・運営をしています。当該システムは様々な環境に合わせて配信できる仕組みを構築することで、既存の動画配信サイトへの生配信だけでなく、VR・AR動画の生配信も可能としています。バーチャルライブアプリ『INSPIX LIVE』は、このシステムを活用し、スマートフォンとスマートフォン向けVRゴーグルを組み合わせることで、VRによる新たな音楽ライブを体験できるものです。より理想的な顧客体験を実現するために、『INSPIX LIVE』をライブ特化型仮想空間SNS『INSPIX WORLD』へ大型アップデートすることを2021年4月に予定しており、積極的に開発投資しています。今後は複数の他社IPが『INSPIX WORLD』（現『INSPIX LIVE』）上でVR音楽ライブの実施を予定しているなど、以前よりも他社IPの誘致と様々な企画の準備が順調に進んでいます。

IPの展開にあたっては、業務提携先である株式会社岩本町芸能社所属のVRアイドル『えのぐ』が、当社のVR音楽ライブプラットフォームの技術を活用し、精力的に様々な活動をしています。当社子会社で芸能プロダクションの運営を行う株式会社VOYZ ENTERTAINMENTでは、所属タレントである三次元のボーイズグループ『VOYZ BOY』と、「二次元と三次元を行き来する」5人組ボーイズグループ『学芸大青春（ガクゲイダイジュネス）』が活動しており、オンライン配信でのライブ活動や各種CD、様々なタレントグッズの発売など精力的に活動をしています。

この結果、当セグメントの売上高は103,696千円（前年同四半期比51.0%増）、セグメント損失は624,541千円（前年同四半期は321,330千円のセグメント損失）となりました。

3. その他

報告セグメントに含まれない事業セグメントとして、HR Tech及び医療機関向けSaaS等の事業セグメントにより構成されています。

HR Techでは、グラム株式会社において、性格傾向データを活用した適性検査クラウド『Jobgram』を展開しています。

医療機関向けSaaSでは、株式会社イグニスオンライン診療を目的とした医療機関向けのソフトウェアの企画・開発・運営を行っており、『FOREST』というソフトウェアをオンライン診療と相性が良い医療機関に対して提供しています（注2）。

当第1四半期連結累計期間において、主にグラム株式会社のサービスを展開する一方で、医療機関向けSaaSに関しては、引き続き、サービス改善に努めてまいりました。

この結果、その他の売上高は11,738千円（前年同四半期比97.8%減）、セグメント損失は20,699千円（前年同四半期は101,383千円のセグメント利益）となりました。

（注）1. IPとは、Intellectual Propertyの略で、著作権や商標権等の知的財産のことです。

2. 株式会社イグニスメディカルケアソリューションズは、2020年10月1日付で株式会社イグニスに吸収合併され消滅しており、『FOREST』は株式会社イグニスに承継されています。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は4,290,150千円となり、前連結会計年度末に比べ619,318千円減少いたしました。流動資産は2,619,899千円(前連結会計年度末比582,337千円減)となりました。主な減少要因は、法人税の支払等により現金及び預金が484,454千円減少したことによるものであります。また、固定資産は1,670,251千円(前連結会計年度末比36,981千円減)となりました。主な減少要因は、持分法による投資損失の計上等により投資有価証券が56,624千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は1,949,075千円となり、前連結会計年度末に比べ278,897千円減少いたしました。流動負債は1,683,581千円(前連結会計年度末比72,425千円増)となりました。主な増加要因は、1年内返済予定の長期借入金が297,342千円増加したこと、主な減少要因は、未払法人税等が191,778千円減少したことによるものであります。また、固定負債は265,493千円(前連結会計年度末比351,322千円減)となりました。当該減少要因は、1年内返済予定の長期借入金への振替により、長期借入金が351,322千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は2,341,075千円となり、前連結会計年度末に比べ340,421千円減少いたしました。主な減少要因は、利益剰余金が377,713円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の連結業績予想につきましては、2020年11月12日に公表いたしました「2020年9月期 決算短信」の内容に変更はございません。なお、業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,404,652	920,197
売掛金	702,021	664,010
営業貸付金	1,194,206	1,188,945
仕掛品	6,852	6,917
貯蔵品	5,194	5,194
その他	734,135	679,462
貸倒引当金	△844,826	△844,826
流動資産合計	3,202,236	2,619,899
固定資産		
有形固定資産	189,012	179,935
無形固定資産		
ソフトウェア	409,221	421,860
無形固定資産合計	409,221	421,860
投資その他の資産		
投資有価証券	301,734	245,109
長期未収入金	920,612	920,612
その他	611,292	627,373
貸倒引当金	△724,640	△724,640
投資その他の資産合計	1,108,998	1,068,455
固定資産合計	1,707,232	1,670,251
資産合計	4,909,469	4,290,150
負債の部		
流動負債		
買掛金	56,399	44,825
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	150,975	448,317
未払金	433,819	517,477
未払法人税等	302,410	110,632
その他	567,551	462,328
流動負債合計	1,611,156	1,683,581
固定負債		
長期借入金	486,956	135,633
資産除去債務	129,860	129,860
固定負債合計	616,816	265,493
負債合計	2,227,972	1,949,075
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,935,536	2,956,017
資本剰余金	2,841,540	2,862,021
利益剰余金	△3,051,430	△3,429,143
自己株式	△52,281	△52,331
株主資本合計	2,673,364	2,336,562
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△341	△1,727
その他の包括利益累計額合計	△341	△1,727
新株予約権	7,880	5,640
非支配株主持分	593	599
純資産合計	2,681,496	2,341,075
負債純資産合計	4,909,469	4,290,150

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
売上高	1,496,253	1,444,381
売上原価	247,907	198,843
売上総利益	1,248,346	1,245,538
販売費及び一般管理費	1,183,274	1,501,255
営業利益又は営業損失(△)	65,072	△255,717
営業外収益		
受取利息	428	6
受取配当金	—	2,322
消費税差額	0	1,973
雑収入	374	3,356
営業外収益合計	803	7,659
営業外費用		
支払利息	1,058	1,498
持分法による投資損失	38,540	60,344
貸倒引当金繰入額	3,000	—
雑損失	4,247	4,306
営業外費用合計	46,846	66,149
経常利益又は経常損失(△)	19,028	△314,207
特別利益		
固定資産売却益	—	15,000
投資有価証券売却益	11,211	14,400
新株予約権戻入益	—	1,993
特別利益合計	11,211	31,393
特別損失		
投資有価証券評価損	549	—
減損損失	10,920	1,449
特別損失合計	11,469	1,449
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	18,770	△284,263
法人税、住民税及び事業税	108,527	99,647
法人税等調整額	△18,535	△6,204
法人税等合計	89,992	93,443
四半期純損失(△)	△71,222	△377,706
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△179	6
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△71,042	△377,713

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
四半期純損失(△)	△71,222	△377,706
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	347	—
為替換算調整勘定	954	△1,386
その他の包括利益合計	1,302	△1,386
四半期包括利益	△69,920	△379,093
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△69,740	△379,100
非支配株主に係る四半期包括利益	△179	6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マッチング 事業	エンター テック事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	897,998	68,690	966,688	529,565	1,496,253	—	1,496,253
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	897,998	68,690	966,688	529,565	1,496,253	—	1,496,253
セグメント利益又は損失 (△)	285,018	△321,330	△36,311	101,383	65,072	—	65,072

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゲーム事業及び求人サービス、転職エージェントサービス、医療機関向けSaaS、VR医療等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「II 当第1四半期連結累計期間 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「エンターテック事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、10,920千円であります。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2020年10月1日 至 2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マッチング 事業	エンター テック事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,328,946	103,696	1,432,642	11,738	1,444,381	—	1,444,381
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,328,946	103,696	1,432,642	11,738	1,444,381	—	1,444,381
セグメント利益又は損失 (△)	389,523	△624,541	△235,018	△20,699	△255,717	—	△255,717

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、HR Tech及び医療機関向けSaaS等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、「ゲーム事業」について量的な重要性が低下したため、「その他」の区分に含めております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「エンターテック事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、1,449千円であります。

（重要な後発事象）

（資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の件）

当社は、2020年11月26日開催の取締役会において、2020年12月18日開催の第11期定時株主総会に「資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の件」について付議することを決議し、同定時株主総会で承認可決されました。

1. 資本金及び資本準備金の減少並びに剰余金処分の目的

財務体質の健全化を図るとともに、今後の資本政策上の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分を行うものであります。

2. 資本金の額の減少の内容

(1) 減少する資本金の額

2020年9月30日現在の資本金の額2,935,536千円のうち693,670千円を減少して2,241,865千円とし、減少する資本金の額の全額を、その他資本剰余金に振り替えます。

(2) 資本金の額の減少が効力を生ずる日

2021年1月29日

3. 資本準備金の額の減少の内容

(1) 減少する資本準備金の額

2020年9月30日現在の資本準備金の額2,933,727千円的全額を取り崩し、その他資本剰余金に振り替えます。

(2) 資本準備金の額の減少が効力を生ずる日

2021年1月29日

4. 剰余金の処分の内容

会社法第452条の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額の減少の効力発生を条件として、資本金及び資本準備金の額の減少により生じるその他資本剰余金3,627,398千円を繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補に充当いたします。

(1) 減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 3,627,398千円

(2) 増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 3,627,398千円

(3) 剰余金の処分が効力を生ずる日

2021年1月29日

5. 日程

- | | |
|-----------------|-------------|
| (1) 当社取締役会決議日 | 2020年11月26日 |
| (2) 当社株主総会決議日 | 2020年12月18日 |
| (3) 債権者異議申述公告日 | 2020年12月25日 |
| (4) 債権者異議申述最終期日 | 2021年1月25日 |
| (5) 効力発生日 | 2021年1月29日 |

6. その他の重要な事項

本件は、純資産の部における勘定科目間の振替処理であり、純資産額の変動はありません。